



# 株式会社シー・エス・ランバー

東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）  
証券コード 7808


## 2019年5月期 決算説明会

2019年7月26日

1. 当社の概要
2. 決算期変更について
3. 2019年5月期決算概要（6ヶ月）
4. 2020年5月期業績予想（12ヶ月）
5. 中期経営計画

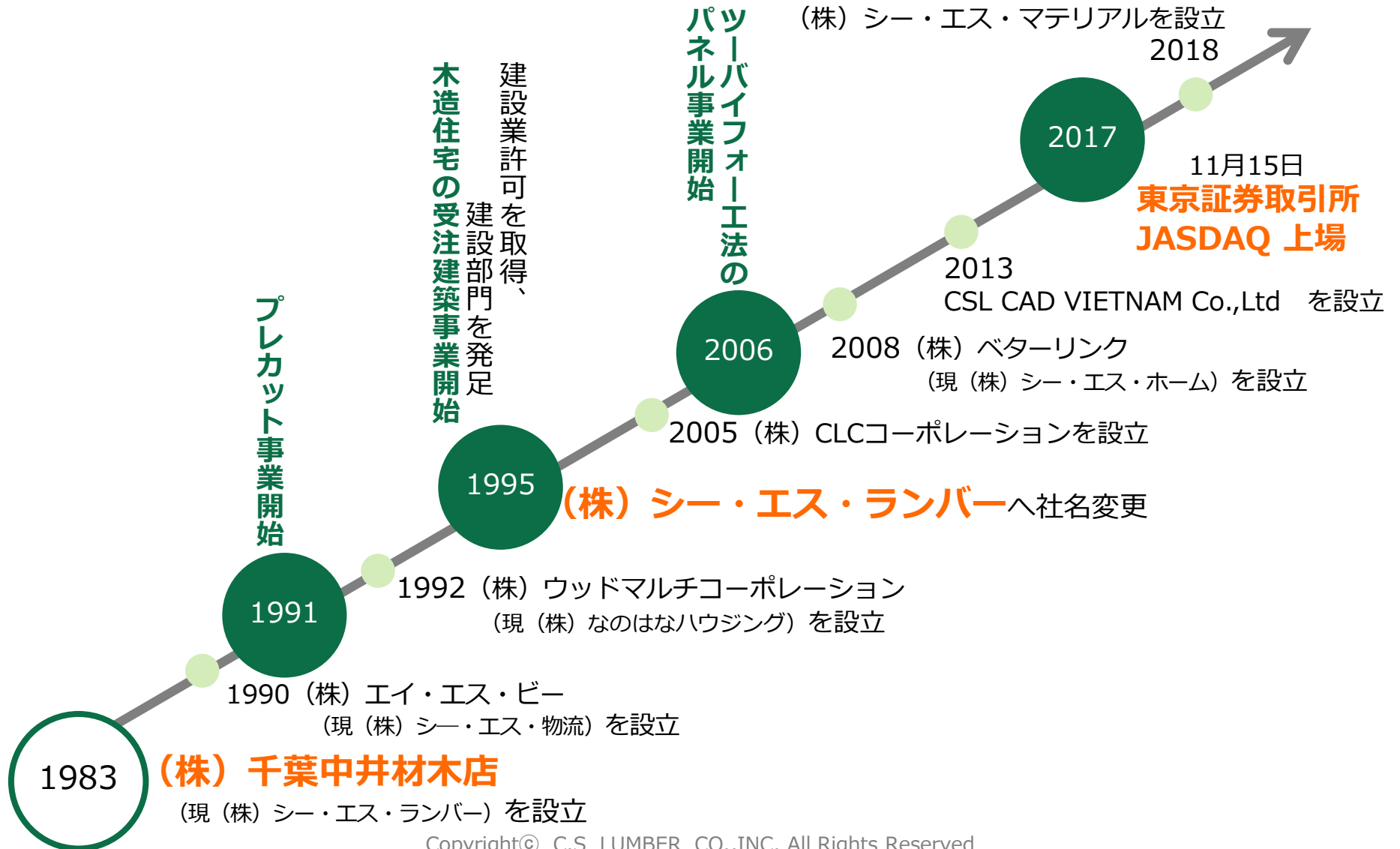
## Customer Satisfaction through Lumber

木材を通じて顧客に満足戴ける取引に徹する

会社名	株式会社シー・エス・ランバー	 <p>幕張本郷 本社</p>
本社所在地	千葉県千葉市花見川区幕張本郷一丁目16番3号	
代表者	代表取締役社長 中井 千代助	
設立	1983年4月1日	
資本金	521百万円	
事業内容	<p>1:プレカット事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●在来軸組工法における設計、木材のプレカット加工及び販売</li> <li>●ツーバイフォー工法における設計、木材のプレカット加工、パネルの製造及び販売</li> </ul> <p>2: 建築請負事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●木造住宅・大型木造施設の建築請負</li> </ul> <p>3: 不動産賃貸事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●不動産賃貸・管理</li> </ul> <p>4: その他事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●不動産の販売</li> </ul>	
従業員数	連結 327名 他、臨時従業員 75名	

(2019年5月末現在)

## 木材を熟知する材木店から、木造建築のトータルサービス企業へ



1. 当社の概要
2. 決算期変更について
3. 2019年5月期決算概要（6ヶ月）
4. 2020年5月期業績予想（12ヶ月）
5. 中期経営計画

## 決算期変更（11月から5月へ）の背景と効果

### <背景>

- 当社の事業の特性から9月～12月に生産が集中
- 年度末業務と生産活動が同時進行



### <効果>

- 決算期を11月から5月へ変更することによる効果
  - ① 生産性の向上（ワークライフバランス確保）
  - ② 業績予想の早期化と確度向上

1. 当社の概要
2. 決算期変更について
3. **2019年5月期決算概要（6ヶ月）**
4. 2020年5月期業績予想（12ヶ月）
5. 中期経営計画

# 2019年5月期決算概要（6ヶ月） 損益計算書



	2018年11月期		2019年5月期(12月~5月)			
	第2四半期(12月~5月)実績		実績		前年同期比	
	金額(百万円)	構成比	金額(百万円)	構成比	増減額(百万円)	増減率
売上高	6,334	100.0%	7,803	100.0%	1,469	23.2%
プレカット	5,522	87.2%	6,111	78.3%	589	10.7%
建築請負	1,094	17.3%	1,979	25.4%	885	80.9%
不動産賃貸	116	1.8%	167	2.1%	51	44.2%
その他	110	1.8%	377	4.8%	266	240.0%
調整額	△ 508	△ 8.0%	△ 832	△ 10.7%	△ 323	-
販売費及び一般管理費	1,001	15.8%	1,041	13.3%	39	4.0%
営業利益	35	0.6%	388	5.0%	353	996.8%
プレカット	0	0.0%	205	2.6%	205	75464.6%
建築請負	△ 54	△ 0.9%	21	0.3%	75	-
不動産賃貸	71	1.1%	104	1.3%	33	46.7%
その他	△ 2	△ 0.0%	33	0.4%	36	-
調整額	20	0.3%	22	0.3%	2	9.9%
営業外収益	33	0.5%	42	0.5%	9	28.9%
営業外費用	52	0.8%	69	0.9%	16	30.8%
経常利益	15	0.2%	362	4.6%	346	2207.8%
特別利益	0	0.0%	-	-	0	△ 100.0%
特別損失	0	0.0%	43	0.6%	43	26670.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	△ 4	△ 0.1%	186	2.4%	190	-



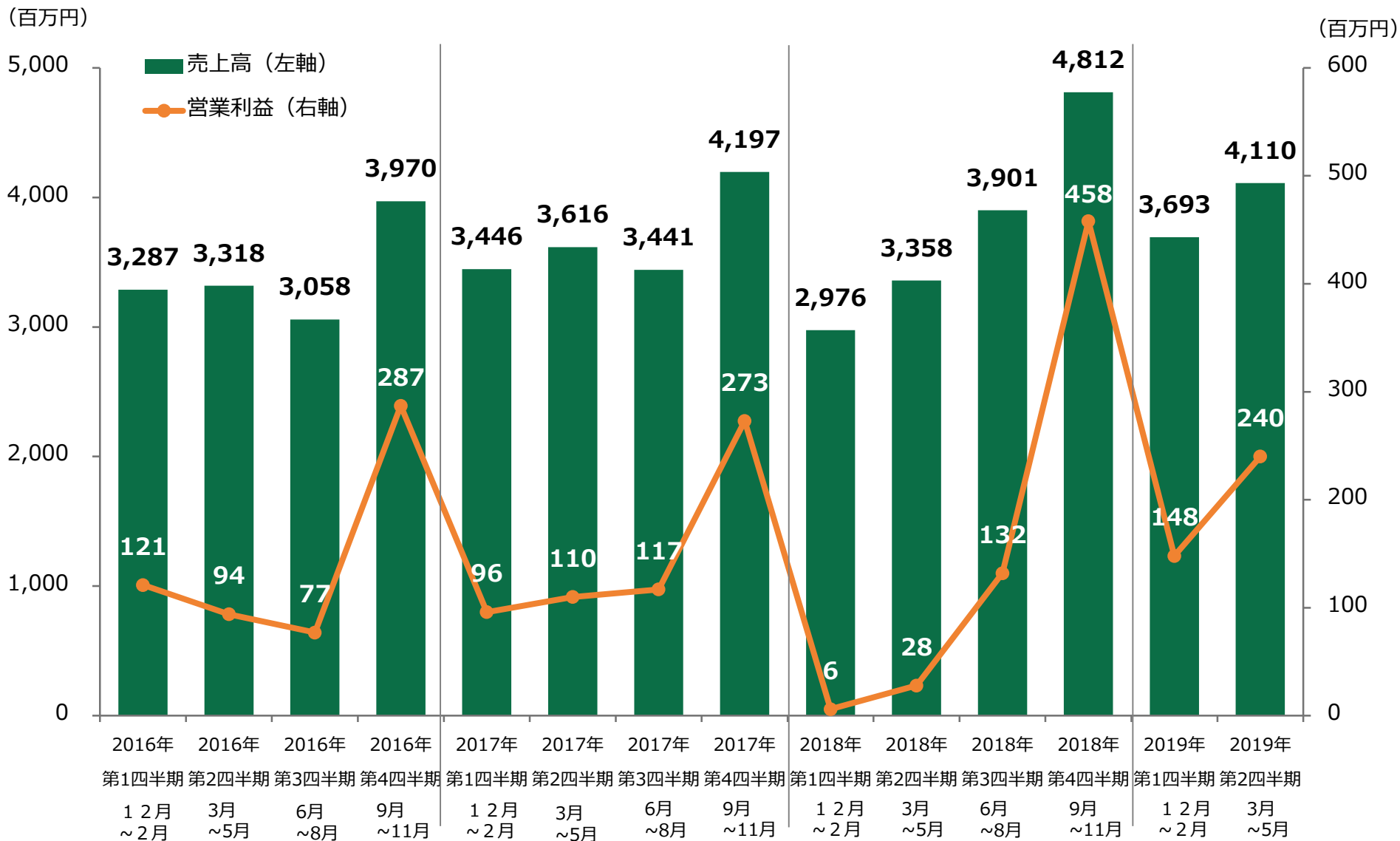
# 2019年5月期決算概要（6ヶ月） 予想との対比



	2019年5月期 期初予想		2019年5月期			
	金額（百万円）	構成比	実績		予想比	
			金額（百万円）	構成比	増減額（百万円）	増減率
売上高	7,500	100.0%	7,803	100.0%	303	4.1%
プレカット	5,685	75.8%	6,111	78.3%	426	7.5%
建築請負	1,990	26.5%	1,979	25.4%	△ 10	△ 0.5%
不動産賃貸	168	2.2%	167	2.1%	0	△ 0.3%
その他	270	3.6%	377	4.8%	106	39.3%
調整額	△ 615	△ 8.2%	△ 832	△ 10.7%	△ 217	-
販売費及び一般管理費	1,083	14.5%	1,041	13.3%	△ 42	△ 3.9%
営業利益	251	3.3%	388	5.0%	137	54.9%
プレカット	104	1.4%	205	2.6%	101	97.7%
建築請負	28	0.4%	21	0.3%	△ 7	△ 25.2%
不動産賃貸	83	1.1%	104	1.3%	20	24.9%
その他	5	0.1%	33	0.4%	28	481.9%
調整額	28	0.4%	22	0.3%	△ 5	△ 19.7%
営業外収益	31	0.4%	42	0.5%	11	36.9%
営業外費用	61	0.8%	69	0.9%	7	11.9%
経常利益	220	2.9%	362	4.6%	141	64.4%
特別利益	-	-	-	-	-	-
特別損失	5	0.1%	43	0.6%	38	767.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	140	1.9%	186	2.4%	46	33.2%

※2019年1月15日発表の数値

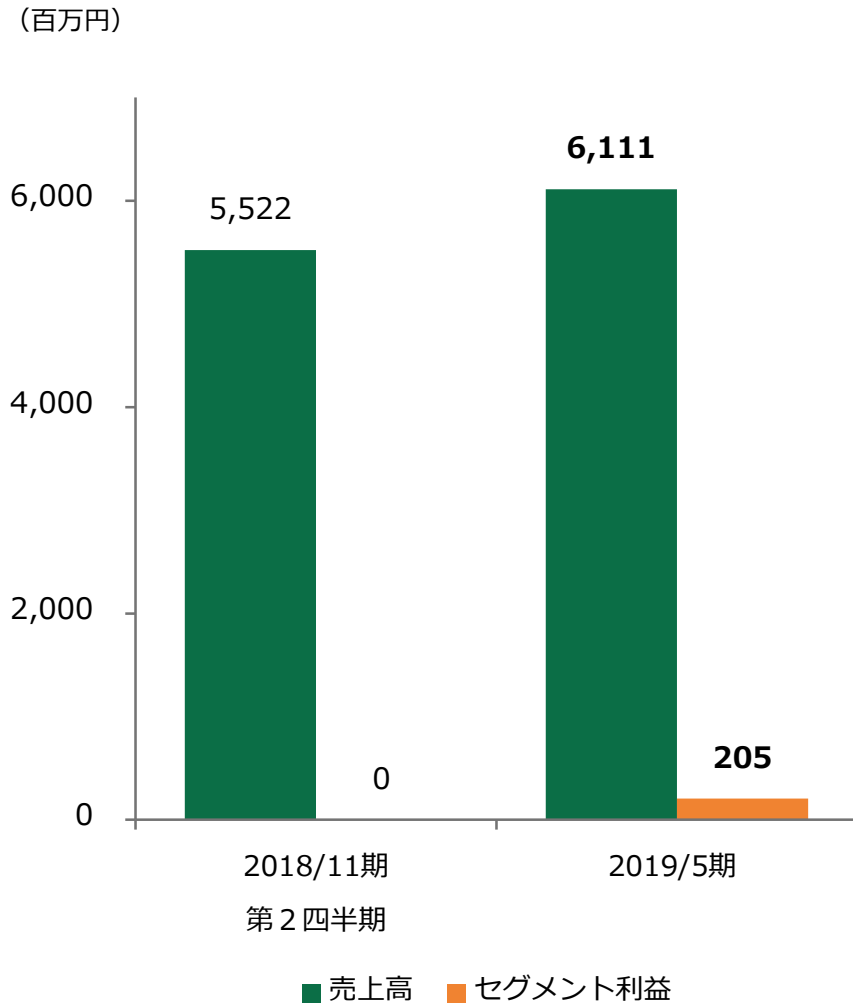
# 2019年5月期決算概要（6ヶ月） 四半期業績推移



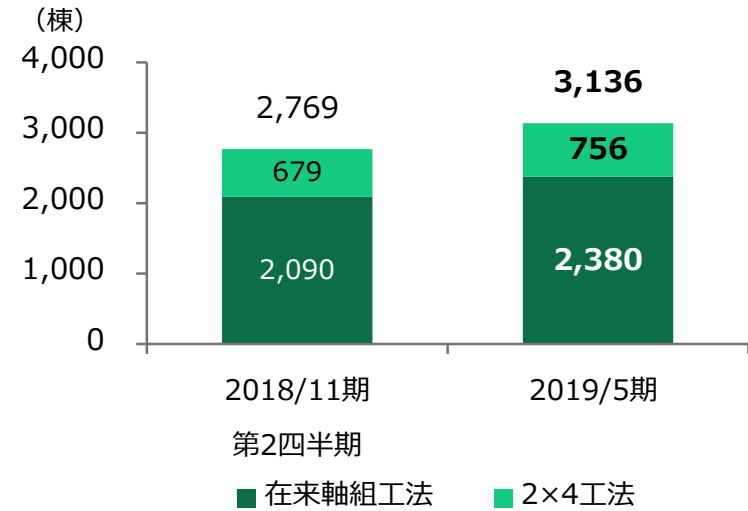
# 2019年5月期決算概要（6ヶ月）プレカット事業



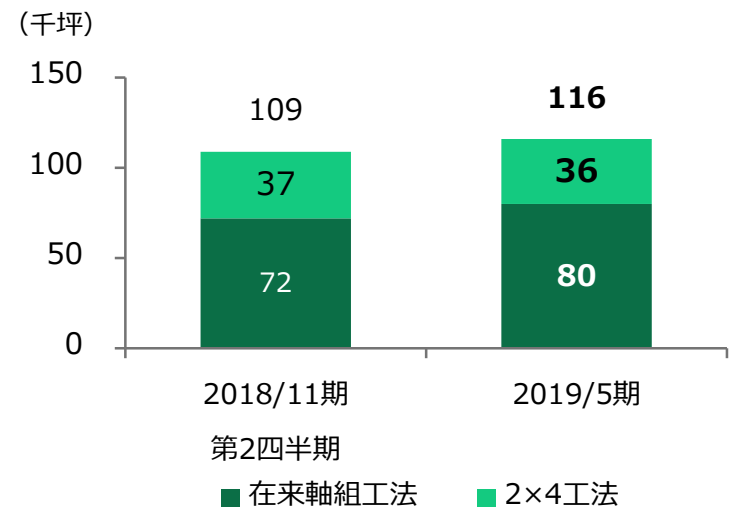
## 売上高・セグメント利益



## 出荷棟数



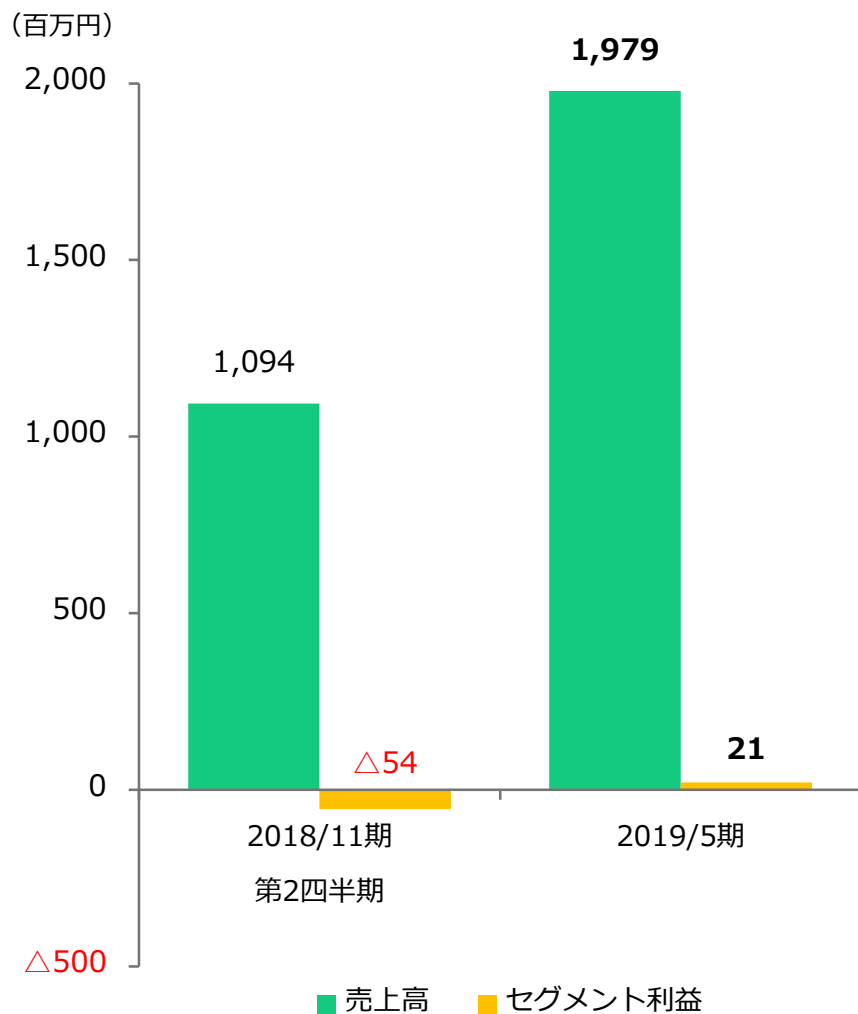
## 出荷坪数



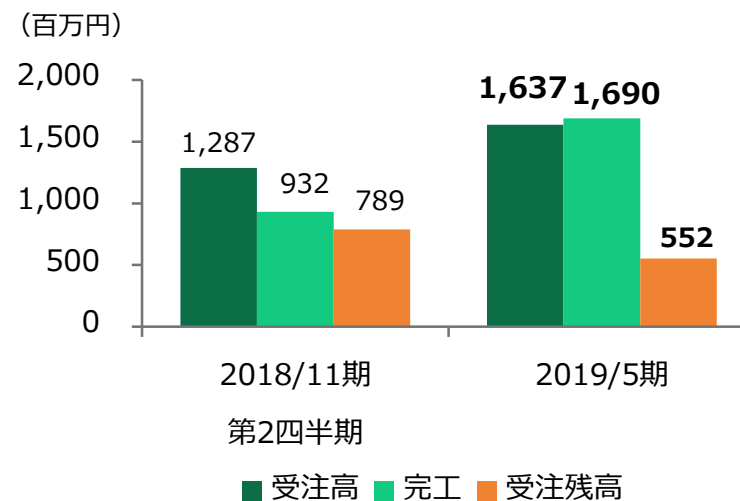
# 2019年5月期決算概要（6ヶ月） 建築請負事業



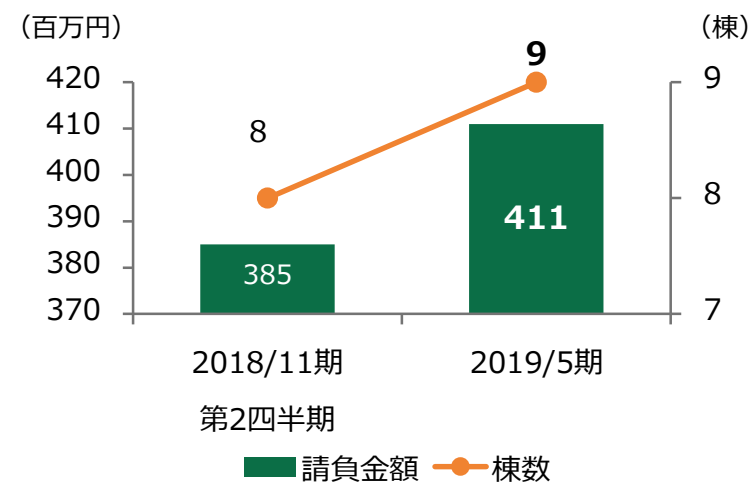
## 売上高・セグメント利益



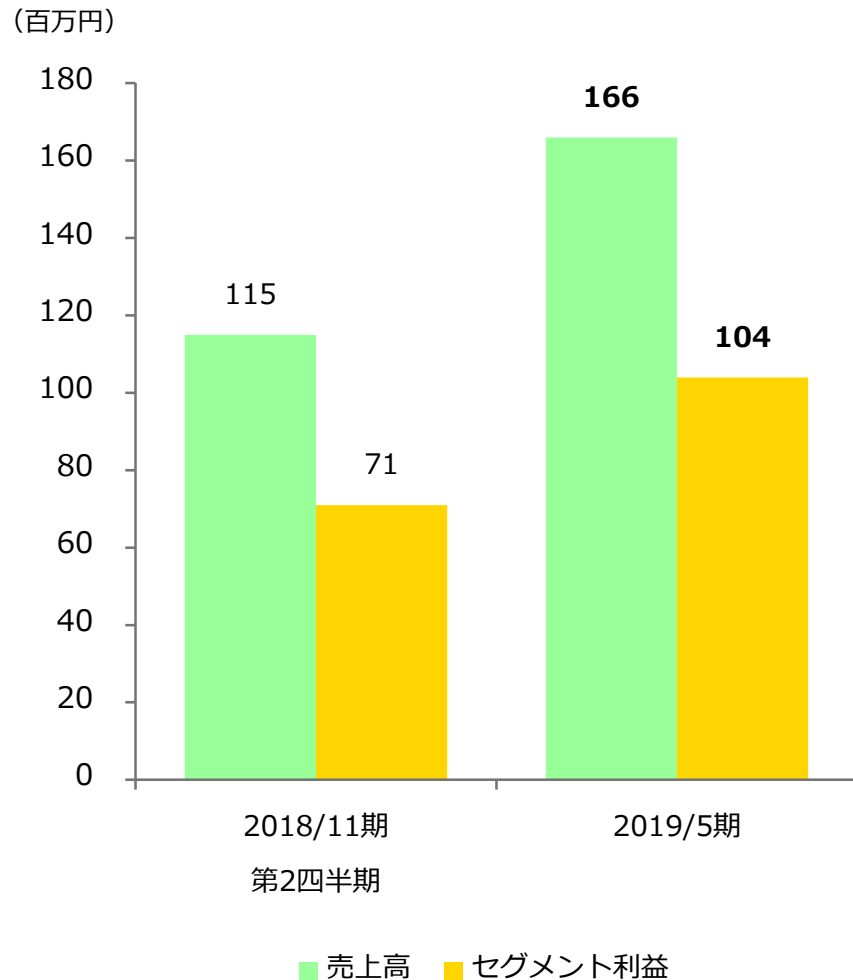
## 受注・完工・受注残



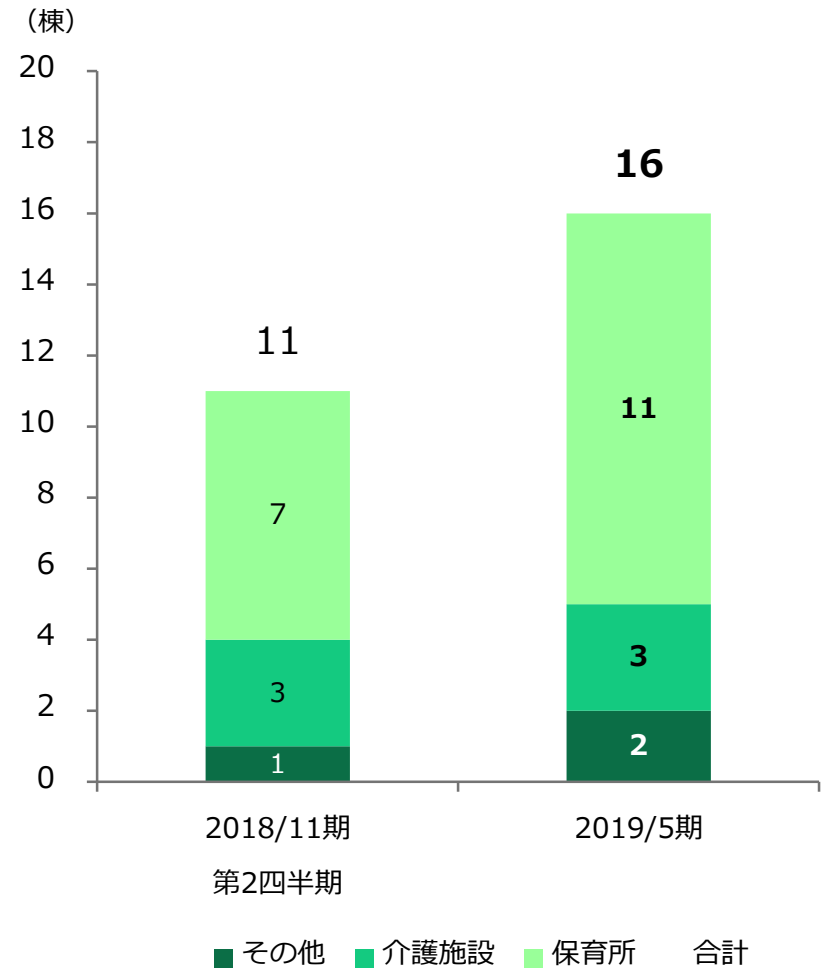
## 大型(50坪以上)木造住宅・施設



## 売上高・セグメント利益



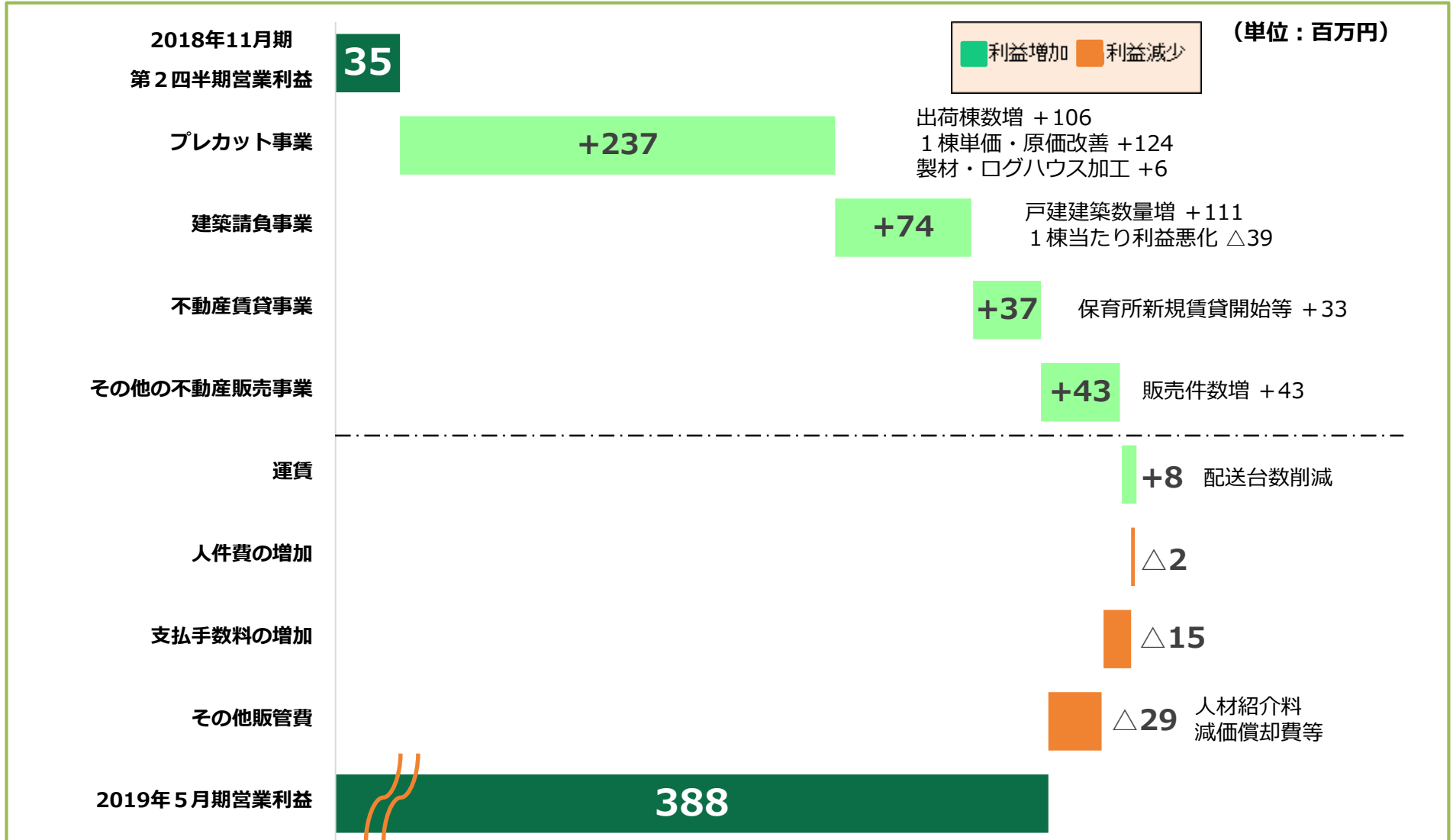
## 賃貸及び管理棟数



# 2019年5月期決算概要（6ヶ月） 営業利益の増減(前年同期差)



前年同期に対して大幅に増益



# 2019年5月期決算概要（6ヶ月）貸借対照表



	2018年11月期末		2019年5月期末			
	実績		実績		前期末比	
	金額（百万円）	構成比	金額（百万円）	構成比	増減額（百万円）	増減率
流動資産	5,628	44.4%	5,382	40.0%	△ 246	△4.4%
現金及び預金	1,456	11.5%	1,748	13.0%	292	20.1%
受取手形及び売掛金	3,051	24.1%	2,370	17.6%	△ 680	△22.3%
販売用不動産	244	1.9%	411	3.1%	166	68.2%
仕掛品	389	3.1%	347	2.6%	△ 41	△10.8%
原材料及び貯蔵品	294	2.3%	333	2.5%	39	13.4%
その他	192	1.5%	170	1.3%	△ 22	△11.5%
固定資産	7,058	55.6%	8,072	60.0%	1,013	14.4%
有形固定資産	6,507	51.3%	7,444	55.3%	937	14.4%
無形固定資産	170	1.3%	166	1.2%	△ 3	△2.2%
投資その他の資産	380	3.0%	460	3.4%	80	21.0%
<b>資産合計</b>	<b>12,687</b>	<b>100.0%</b>	<b>13,454</b>	<b>100.0%</b>	<b>767</b>	<b>6.0%</b>
流動負債	6,066	47.8%	5,639	41.9%	△ 426	△7.0%
支払手形及び買掛金	3,052	24.1%	2,678	19.9%	△ 374	△12.3%
短期借入金	1,311	10.3%	1,459	10.8%	148	11.3%
1年内返済予定の長期借入金	513	4.0%	317	2.4%	△ 196	△38.3%
リース債務	183	1.4%	190	1.4%	6	3.7%
未払金	603	4.8%	365	2.7%	△ 237	△39.4%
その他	401	3.2%	628	4.7%	226	56.4%
固定負債	3,980	31.4%	5,066	37.7%	1,086	27.3%
長期借入金	2,908	22.9%	3,986	29.6%	1,078	37.1%
リース債務	624	4.9%	634	4.7%	10	1.7%
その他	447	3.5%	445	3.3%	△ 2	△0.5%
<b>負債合計</b>	<b>10,047</b>	<b>79.2%</b>	<b>10,706</b>	<b>79.6%</b>	<b>659</b>	<b>6.6%</b>
株主資本合計	2,559	20.2%	2,676	19.9%	116	4.5%
<b>純資産合計</b>	<b>2,640</b>	<b>20.8%</b>	<b>2,747</b>	<b>20.4%</b>	<b>107</b>	<b>4.1%</b>
負債純資産合計	12,687	100.0%	13,454	100.0%	767	6.0%

# 2019年5月期決算概要（6ヶ月） キャッシュフロー



	2018年11月期第2四半期 (12月~5月) 実績	2019年5月期 (12月~5月) 実績
	金額 (百万円)	金額 (百万円)
営業活動によるキャッシュフロー	308	503
投資活動によるキャッシュフロー	△ 564	△ 1,052
財務活動によるキャッシュフロー	125	841
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△ 131	291
現金及び現金同等物の期首残高	1,699	1,422
現金及び現金同等物の期末残高	1,567	1,714

	2018年11月期第2四半期 (12月~5月) 実績	2019年5月期 (12月~5月) 実績
	金額 (百万円)	金額 (百万円)
設備投資	497	1,045
減価償却費	160	192



1. 当社の概要
2. 決算期変更について
3. 2019年5月期決算概要（6ヶ月）
4. 2020年5月期業績予想（12ヶ月）
5. 中期経営計画

# 2020年5月期（12ヶ月）業績予想



	2018年6月～2019年5月 実績（特殊要因除く）		2020年5月期 (2019年6月～2020年5月)予想			
	金額（百万円）	構成比	金額（百万円）	構成比	増減額（百万円）	増減率
売上高	15,818	100.0%	16,200	100.0%	382	2.4%
プレカット	12,108	76.5%	12,565	77.6%	457	3.8%
建築請負	4,118	26.0%	3,803	23.5%	△ 315	△7.6%
不動産賃貸	407	2.6%	542	3.3%	135	33.2%
その他	719	4.5%	527	3.3%	△ 192	△26.7%
調整額	△ 1,535	△9.7%	△ 1,238	△7.6%	297	-
営業利益	661	4.2%	688	4.2%	27	4.1%
プレカット	223	1.4%	227	1.4%	4	1.8%
建築請負	67	0.4%	49	0.3%	△ 18	△26.9%
不動産賃貸	280	1.8%	332	2.0%	52	18.6%
その他	30	0.2%	25	0.2%	△ 5	△16.7%
調整額	58	0.4%	54	0.3%	△ 4	△6.9%
経常利益	600	3.8%	630	3.9%	30	5.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	362	2.3%	384	2.4%	22	6.1%

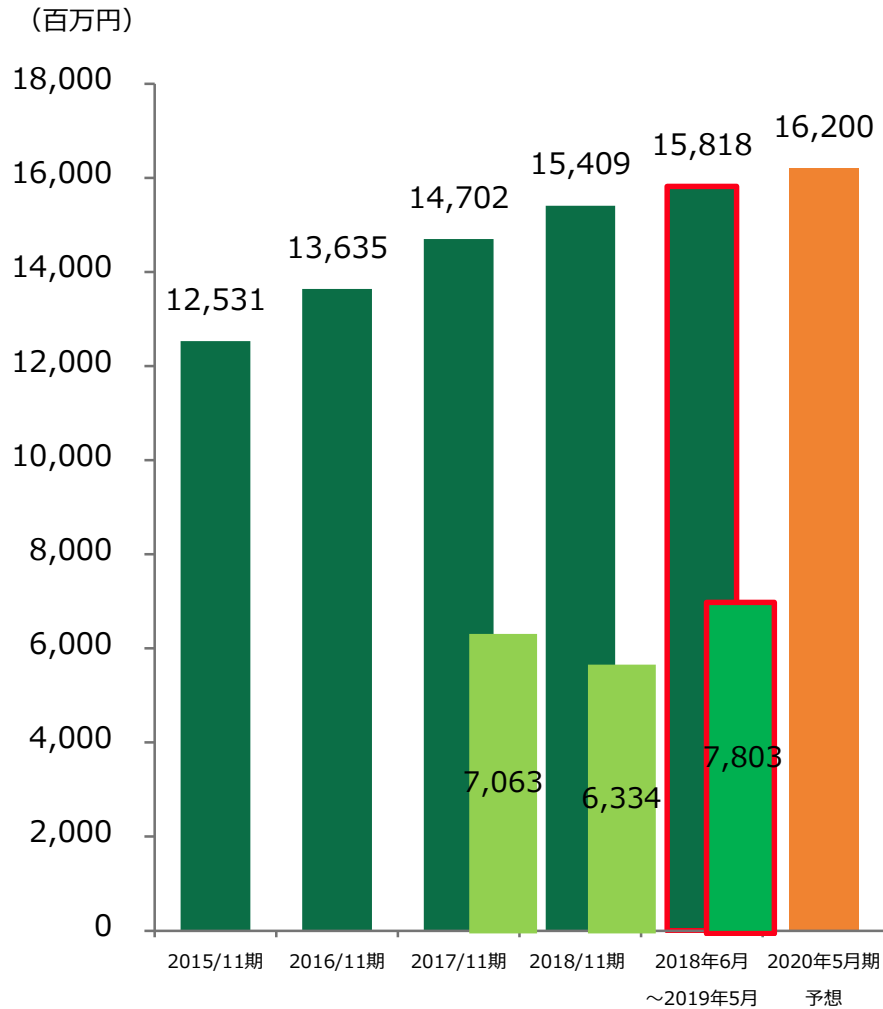
※2019年5月期は決算期変更の経過期間となることから、2018年6月1日から2019年5月31日までを計算した変則期間に対し消費税増税  
 駆け込み需要効果を除く値で読み替えたものを表し、2020年5月期通期業績予想と比較する表として作成しております。なお、消費税駆け込み  
 需要の効果に関しましては過去の売上実績、当社の営業施策等を勘案して当社グループにおいて独自に判断したものです。

# 2020年5月期（12ヶ月）業績予想 業績推移



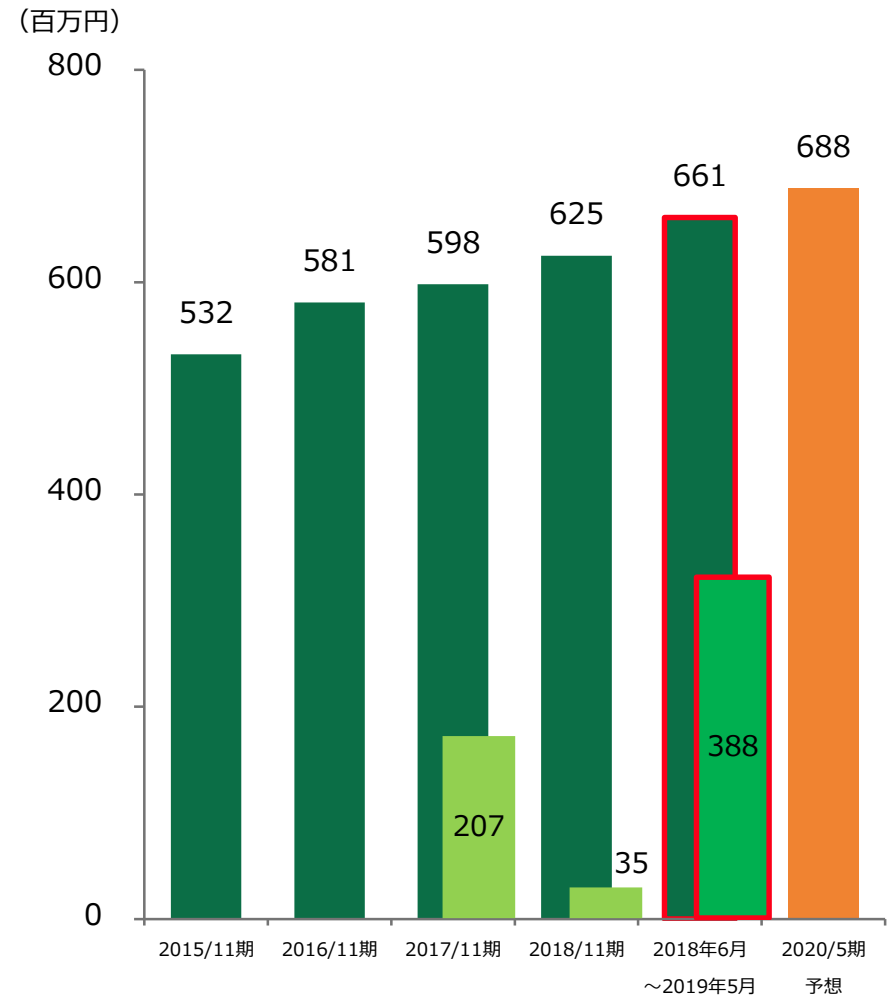
※2018年6月～2019年5月は、特殊要因（消費税増税駆け込み需要効果）を除く値で読み替えを実施

## 売上高



■ 通期実績 ■ 2Q実績 ■ 通期業績予想

## 営業利益

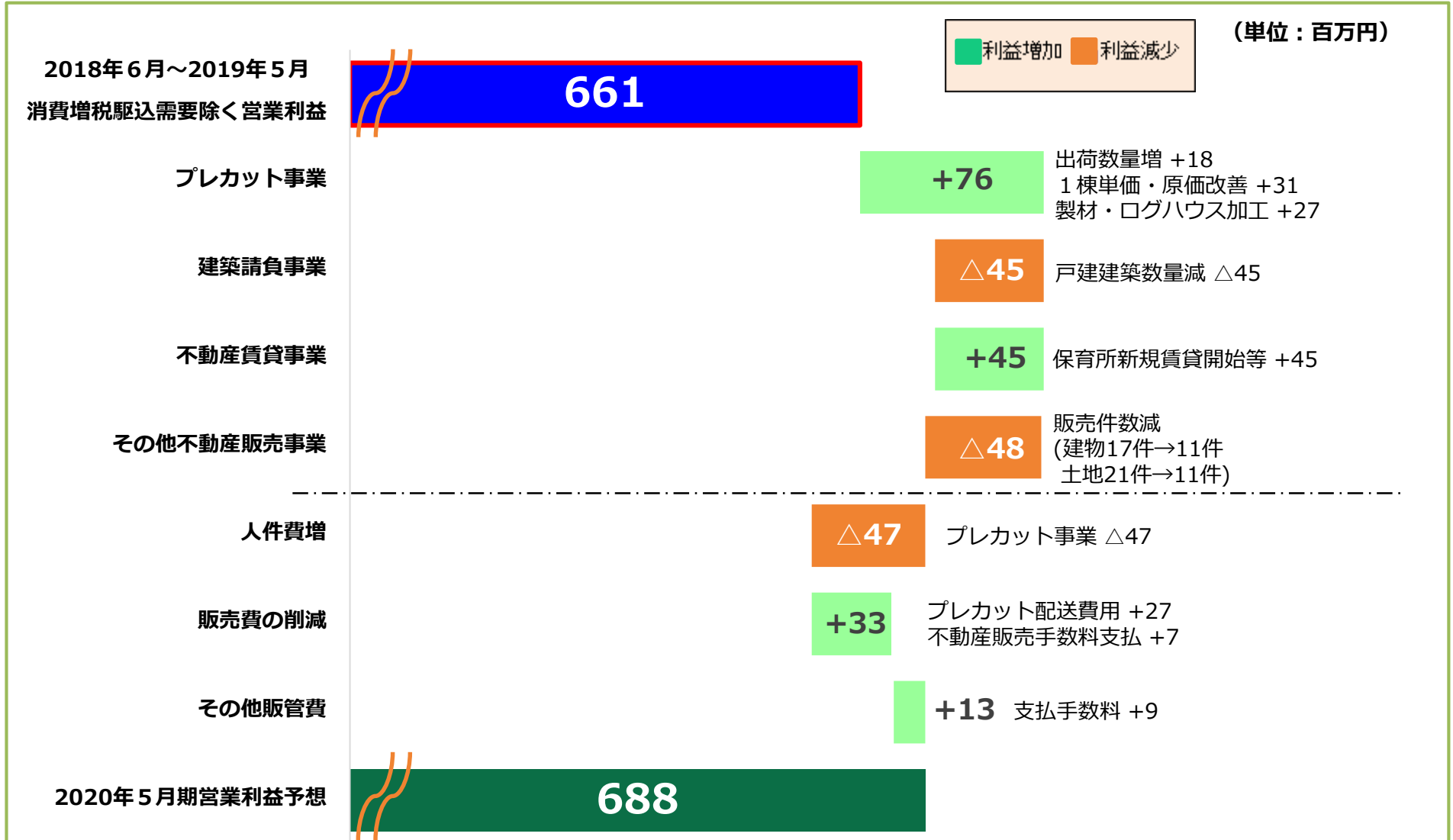


■ 通期実績 ■ 2Q実績 ■ 通期業績予想

# 2020年5月期（12ヶ月）業績予想 営業利益予想分析



主にプレカット事業・不動産賃貸事業が伸長し、営業利益前年同期比増加を見込む



## 配当政策の基本方針

将来の事業展開と  
経営体質強化に必要な  
内部留保の確保

継続性・安定性  
(配当性向20%を目安)

経営成績に応じた配当の実施

## 配当金額

2018年11月期 (12ヶ月決算)

1株当たり年間配当金 : 40円 (中間: 0円 期末40円)

2019年 5月期 (6ヶ月決算)

1株当たり年間配当金 : 22円 (期末22円)

2020年 5月期 (12ヶ月決算)

1株当たり年間配当金予想 : 42円 (中間: 0円 期末42円)

1. 当社の概要
2. 決算期変更について
3. 2019年5月期決算概要（6ヶ月）
4. 2020年5月期業績予想（12ヶ月）
5. 中期経営計画

シー・エス・ランバーグループ社是

## Customer Satisfaction through Lumber 木材を通じて顧客に満足頂ける取引に徹する



短期的な経営課題にしっかりと対応し安定した利益を確保すると同時に  
中長期的な経営課題をも見据えた施策を実施し持続的成長軌道に乗せる

## 2020年春頃までは 比較的安定推移

- 住宅市場の急激な市場縮小はないものの
  - ・ 大工の高齢化、職人の人材不足加速
  - ・ 競争案件増加
- 幼児教育・保育無償化  
(2019年10月)
- 増税後の負担を減らす支援策



## 2020年夏以降は 様々な大きな変化を予想

- 住宅着工戸数大幅減のきざし
- 大工職人不足がより一層顕在化
- 消費増税による消費冷え込み
- 非住宅分野（特に大型物件）の木造建築が定着
- リフォーム・ニーズの高まり



従来の当社主要市場である住宅着工戸数は長期的に大幅減少するリスクが高いものの、それ以外の当社がターゲットとしている市場は拡大傾向にある

## 住宅着工及び非住宅着工市場

非住宅市場  
木造建築比率上昇が期待される  
1都4県(千葉・神奈川・埼玉・茨城)  
12百万㎡

住宅着工市場  
1都4県 4.1百万㎡  
から減少へ

住宅着工に占める当社のシェア  
5.6% (2018年)

リフォーム市場  
1都4県  
1.2兆円

当社の商圏である1都4県については、人口減の影響が軽微と予想されており、住宅着工戸数の減少も他県と比べて限定的であると想定しております

ただし、当社としては市場が大きく変化する可能性に備えて、差別化戦略をしっかりと実行し勝ち組として持続的成長を目指します

## ①プレカット事業

海外で職人を育成し建て方人員について100名を越える体制を構築

職人不足が進む中で、プレカット販売の有力なオプションとなるように整備

ログハウスの加工について機械の購入に伴い、100%内製化を実施

住宅地でも景観に溶け込む事が出来る角ログを中心に  
2019年後半より月20~25棟の加工が出来るように体制を整備

新規取引先の開拓強化

新規取引先開拓と既存顧客対応を行う営業スタッフを分け目標と責任を明確化する事で、住宅市場が縮小する中でシェアを拡大

大型木造建築へ参入

一般流通材で最大スパン「40m」の無柱空間を実現できるATAハイブリッド構法の加工・プレカット

大型木造建築のメリットが認知され需要拡大が見込まれる中で対応可能な体制構築

物流の効率化

一日2便/台配送している運用を業務体制の見直しにより月600台から1,000台に拡大し、コスト面でもプレカット収益に貢献

<p>②建築請負</p>	<p>ログハウスと大型建築受注についてプレカットとのシナジー効果によるグループの利益向上</p> <p>保育園建築の実績を評価頂いている保育園運営会社等からの紹介などから他社の新規保育園計画からも建設請負受注</p> <p>住宅着工件数が落ち込む中で、リフォームニーズは高まる事が想定されるので、リフォームの請負体制整備</p>
<p>③不動産賃貸事業</p>	<p>東京都の待機児童数についてピークを越えたものの、幼児教育・保育無償化が開始されることにより新規建設ニーズは依然強く、既存で確定している15棟から30棟に拡大</p>
<p>④その他事業</p>	<p>おがくず販売の内製化を達成し、自社以外のおがくずについても回収・販売対応を行う事でリサイクルを促進するとともに売上にも貢献</p> <p>おがくず同様に端材についても、バイオマス用チップとして販売</p>

## ⑤人財開発等

グループ各社と親和性の高い良い案件があれば積極的にM&Aによる事業拡大を進めていく。

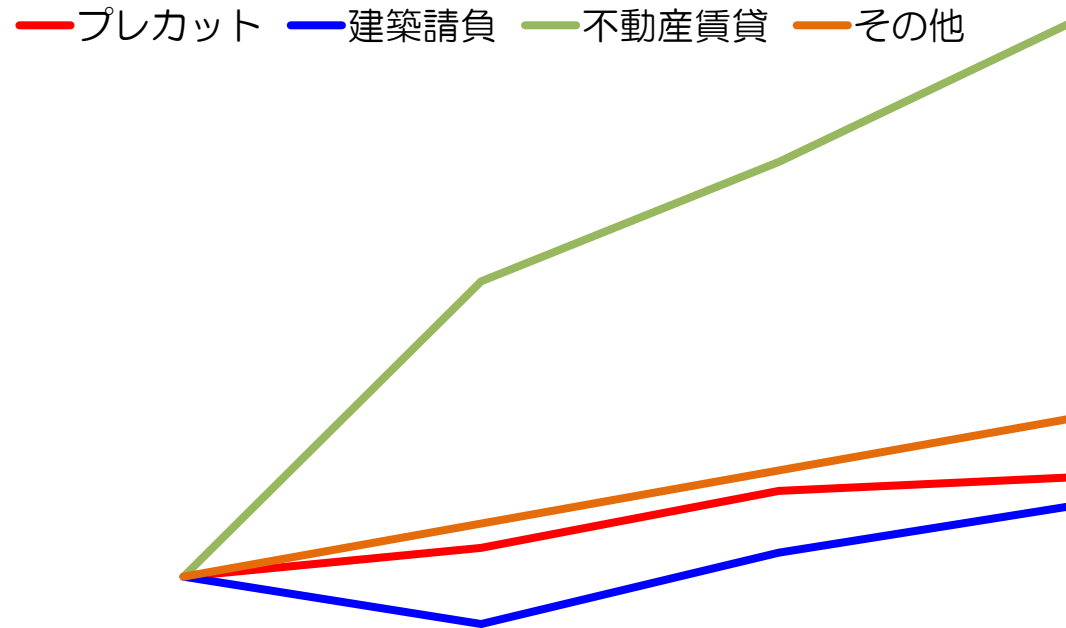
そこで重要になるのが、会社の改革とCSLのカルチャーを浸透させる事ができる人財の採用と育成となるため、採用の多様化と機動的な人員配置、教育体制の構築をフェーズ1で対応

報酬制度を含む人事制度改革によりガバナンス強化とROAの改善

(単位：百万円)	2018/6 ~ 2019/5			2022/5
	実績	特殊要因除く		業績目標
売上高	16,518	15,818	年平均成長率 3%	17,284
営業利益	979	661	年平均成長率 4%	743
当期純利益	553	362	年平均成長率 5%	419

※2018年6月～2019年5月は、特殊要因（消費税増税駆け込み需要効果）を除く値で読み替えを実施

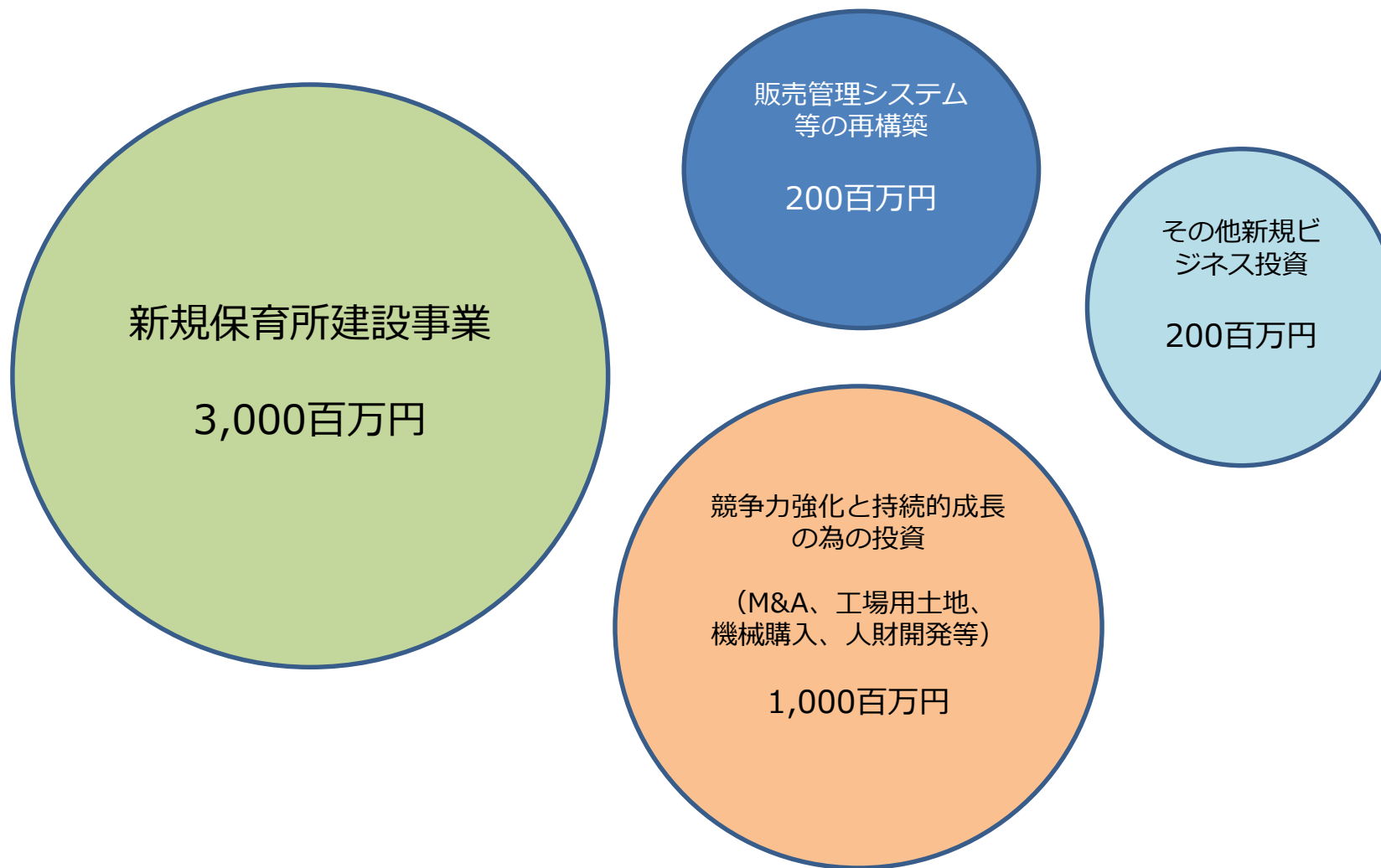
# 今後3年間の成長率（営業利益）イメージ



成長のキー・ドライバー：人財開発

M&Aは成長を追加で牽引するキー・ドライバーになりうるが、案件ベースなのでタイミングは不確定

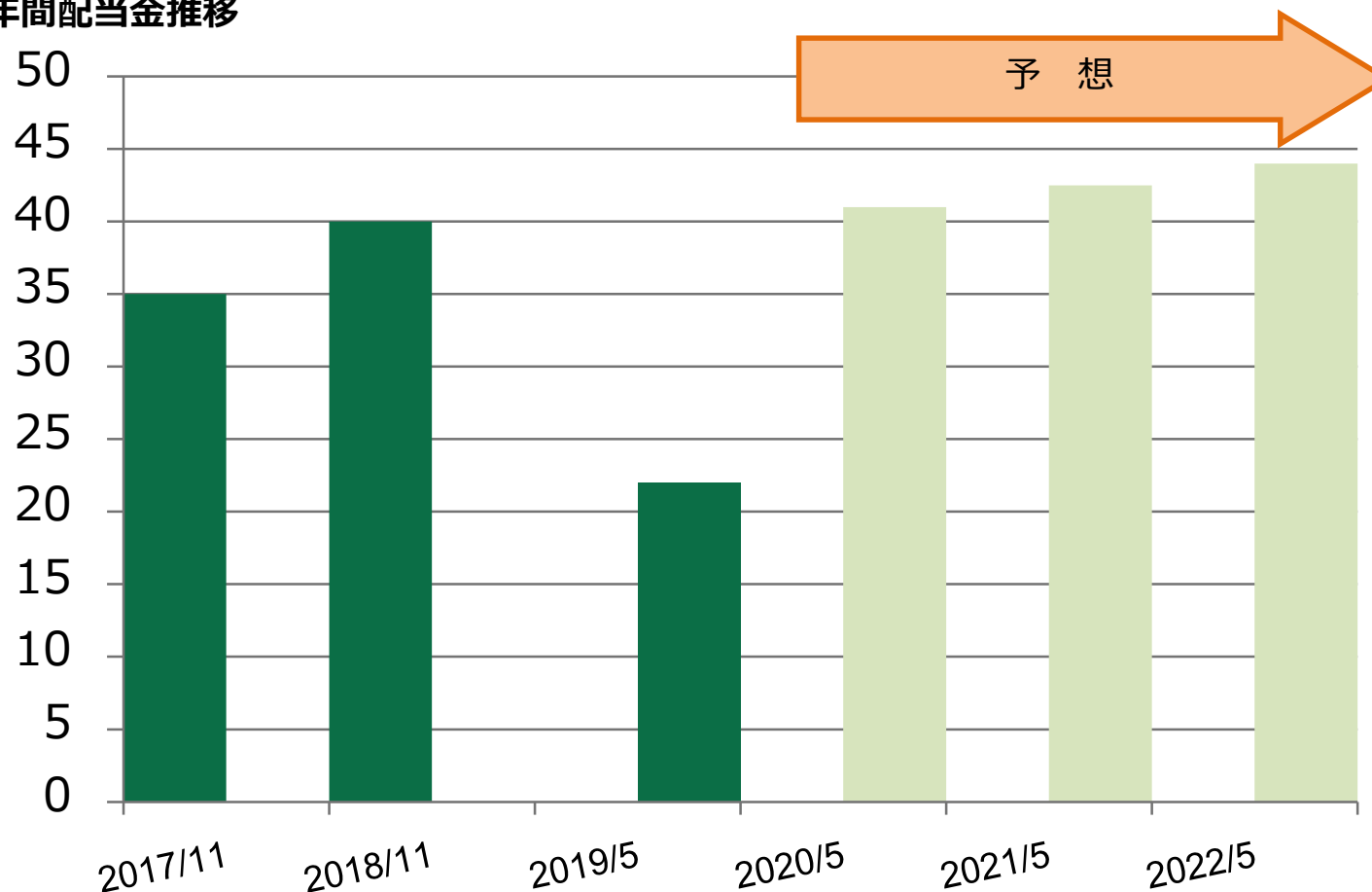
2022年5月まで 4,400百万円の投資



グループ全体での資本効率と自己資本を確保しつつ配当性向20%程度を目安に安定的な配当に努めます

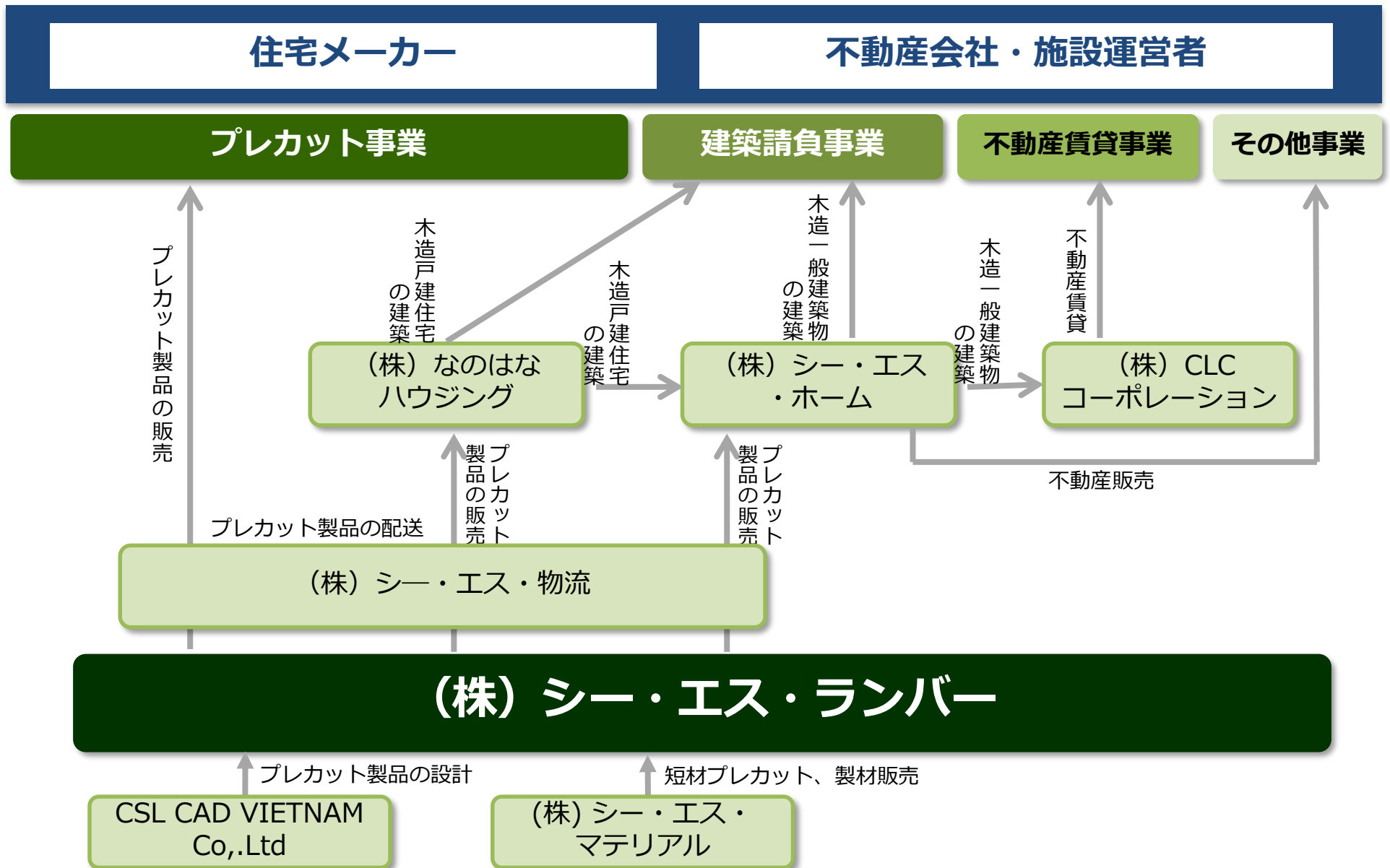
## ※ 1株当たりの年間配当金推移

(単位：円)





# 参考資料



# 事業概要 (1) プレカット事業①



在来軸組工法における設計 (CAD)、木材のプレカット加工及び販売  
ツーバイフォー工法における設計、木材のプレカット加工、パネルの製造及び販売

## 「木造建築の主要2工法に対応」した加工・販売

### 在来軸組工法 (山武工場)

日本で最も主流の工法  
基礎の上に木の土台を据えて、柱と柱を梁で水平につぎ、  
対角線を筋交いで補触する

**ISO9001 : 2015認定**  
登録証番号 : JQA-QM8720  
登録活動範囲 :  
木造住宅用プレカット材の  
設計、製造



(財) 日本住宅・木材技術センター認定  
木質建材製造工場  
品質管理優良工場



### ツーバイフォー工法 (東金工場)

枠状に組まれたツーバイ材に構造用合板を打ち付けた壁や  
床 (面材) で支える「枠組み」構造  
隙間が大変少なく、気密性・防音性に優れている

**JAS認定工場 (全国木材検査・研究協会)**

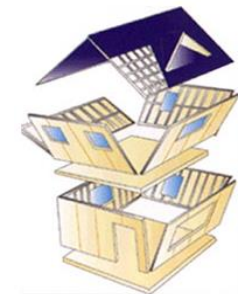
認定番号 : JLIRA-A-016

認定品目 :

枠組壁工法構造用製材

認定区分 :

人工乾燥枠組壁工法構造用製材



## 北欧などからの製品輸入が中心のログハウスプレカット事業に参入



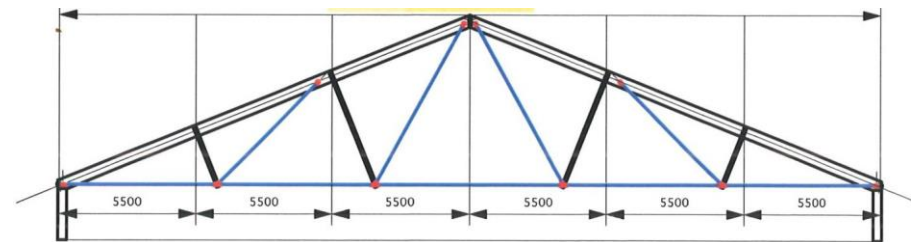
カントリーテイストのある木造家屋が都市部住宅街にも建ち始めている傾向を捉え、ログハウスメーカーとタイアップしてプレカットを開始  
在来軸組工法、ツーバイフォー工法の技術も必要とされており、親和性大

プレカット事業を軸に、建築請負事業にも展開している

## ATAハイブリッドトラス構法のプレカット事業に参入

「無柱大空間を可能にした非住宅・中大規模木造トラス構法」を生んだ株式会社ATA（アタ社）の提携プレカット工場となる

商業・工場・スポーツ施設など建物用途は多岐多様、時代の流れは鉄骨から木造へ



# 事業概要 (2) 建築請負事業



## 木造戸建住宅・木造一般建築物の建築（大型木造施設等）の建築請負

当社のプレカット製品を仕入れて、  
木造住宅・保育所等の大型木造施設を合わせ  
**年間約200棟を施工**



**茂原市介護施設**

- ・構造： 木造2階建
- ・延床： 996.26㎡
- ・居室数： 23室



なのはなモデルハウスA棟

## 長期安定契約を基本方針とした不動産賃貸及び管理

### 主として木造建築の賃貸及び管理



#### 保育所 (大田区)

- ・ 構造：鉄筋コンクリート造り3階建
- ・ 土地：330.57㎡
- ・ 延床：665.56㎡
- ・ 定員数：72名
- ・ 契約期間：2017.10.1  
～2038.3.31

保育所施設	賃貸中 11棟
介護施設	賃貸中 3棟
その他	賃貸中 2棟



#### 保育所 (文京区)

- ・ 構造：重量鉄骨造り3階建
- ・ 土地：128.33㎡
- ・ 延床：274.43㎡
- ・ 定員数：45名
- ・ 契約期間：2017.10.1  
～2038.3.31



#### 介護施設 (千葉市)

- ・ 構造：木造2階建
- ・ 土地：3513.64㎡
- ・ 延床：2942.40㎡
- ・ 室数：26室
- ・ 契約期間：2007.2.1  
～2025.3.31

## 付加価値を創造する木造建築のトータルサービス

- 材木店経営で培った木材（業界）に関する豊富な知識を活かし、木材の仕入れから加工、建築、賃貸・販売までグループ内で行うことで、付加価値を創造

### プレカット事業 歩留まり（端材の削減）の追求力



木材の仕入れ



加工



配送

- 木材の豊富な知識を活かした仕入力、提案力
- 木造建築の主要2工法へ対応した安定力
- コスト競争力(歩留まり追求力)、供給力、高品質
- 首都圏特化による現場対応力、効率性
- 強い顧客基盤

### 建築請負事業



建築

### 不動産賃貸事業



賃貸・管理

### その他事業（不動産の販売）



住宅用地の販売



住宅販売

## 当社の強み（2）プレカット事業（在来軸組工法 山武工場）



ピッキングシステムと新式プレカット加工ラインの導入により、**高い歩留まり・生産性を実現**

### ピッキングシステム（邸別ピッキング用自動倉庫）

更なる「歩留まり追求」を目的に導入

⇒ **歩留まりが約10%向上**

- ・コンピュータ制御による在庫管理技術の向上に伴い、必要な木材のより適切な仕入れが可能となり、**材料費を削減**
- ・材料の木材の入庫、出庫の自動化により、**生産性も向上**



### 新式プレカット加工ライン



- ・加工能力向上に加え、従来難しかった複雑な加工も可能になり機械化率が上昇し、**生産性も向上**
- ・製品の**品質安定化**にも貢献



## 全部位 (壁・床・屋根) のパネルを加工し、現場に配送

- ・ 建築現場における工数が大幅に削減される他、高度技術者も不要となり、**付加価値の高い製品**を提供



壁パネル



床パネル



屋根パネル

## 大量かつ安定供給が可能な東金工場

- ・ 広大な敷地 (62,467㎡) の東金工場に設備を集約し、パネルの**大量生産・保管、安定供給体制**を確保
- ・ 東金インターから約10分の好立地で、**効率化された自社配送**

## 機械化が進んだ生産ライン

- ・ 在来軸組工法で培ったノウハウを活かし、**機械化を推進**  
**複雑な形状の加工においても機械化を進め、高品質、高い生産性を確保**



マルチカットライン  
(木材のカット)



マルチカット製品



パネルシージングライン  
(自動釘打ちマシン)

## ベトナム子会社でのCAD設計

標準的な建物の設計を行い、**コスト低減**

- クロス (直切り) カットライン 2ライン
- マルチカットライン 2ライン
- パネルシージングライン 2ライン

# 当社の強み (4) プレカット事業 (首都圏に特化)

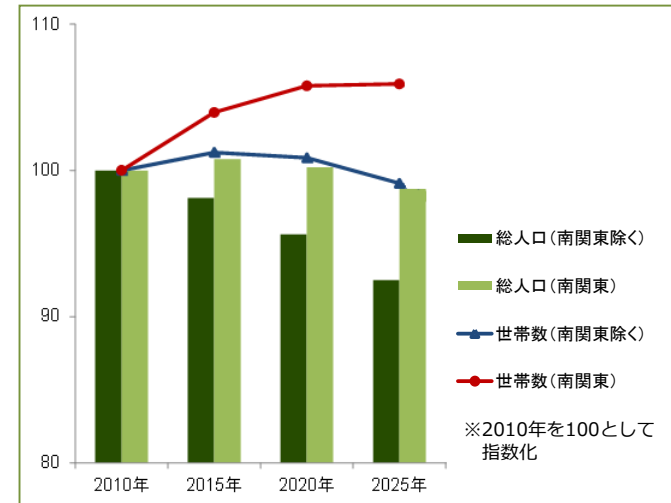


人口が集中する首都圏(1都4県)に絞った生産・営業拠点



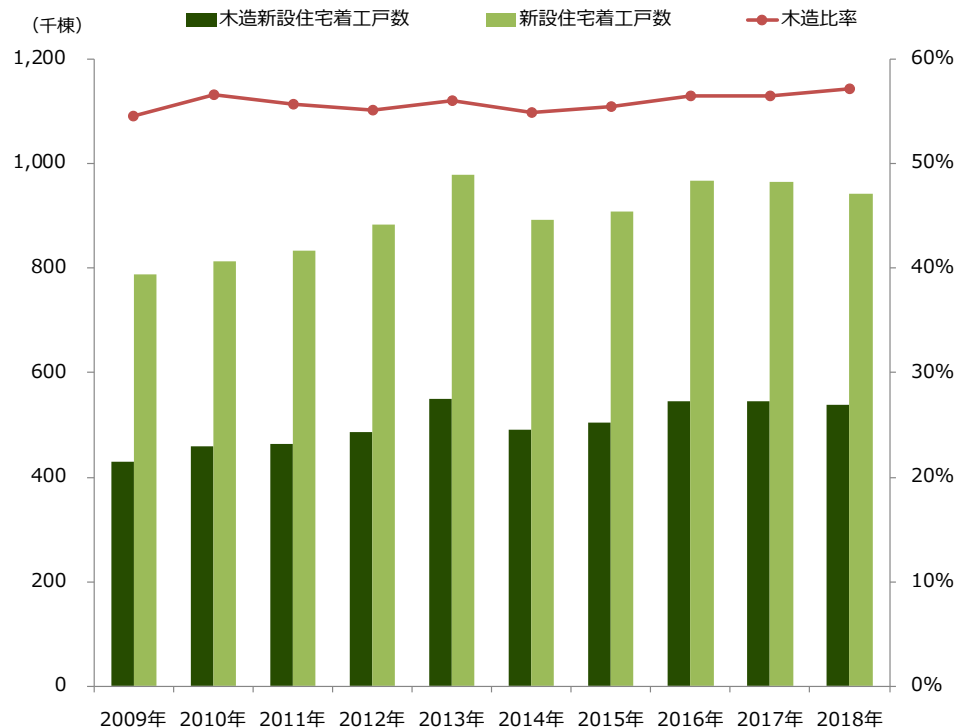
## 展開エリアを絞ることにより

- ・お客様のニーズへの迅速な対応 (企画・設計・アフターサービス)
  - ・営業効率
  - ・配送効率
- 生産性向上による  
コスト競争力



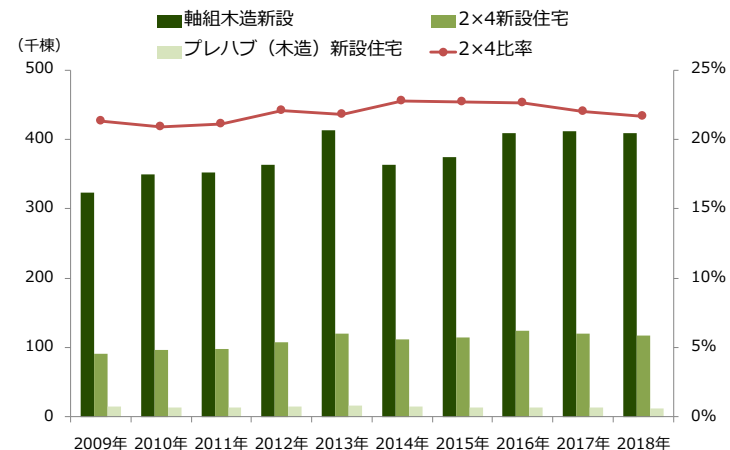
出所：国立社会保障・人口問題研究所「全国人口将来推計」より当社作成

## 新設住宅着工戸数に占める木造新設住宅着工戸数の割合



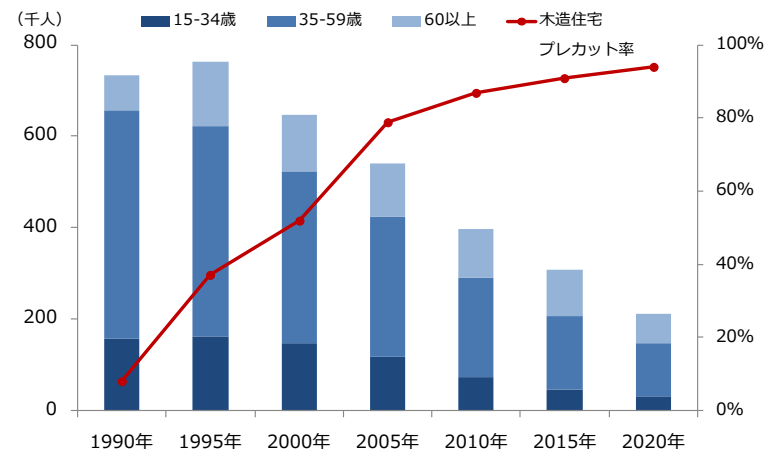
出所：国土交通省総合政策局情報管理部建設調査統計課資料より当社作成

## 工法別木造新設住宅着工戸数とツーバイフォー比率



出所：国土交通省総合政策局情報管理部建設調査統計課資料より当社作成

## 年齢別大工就業者数と軸組木造住宅のプレカット率

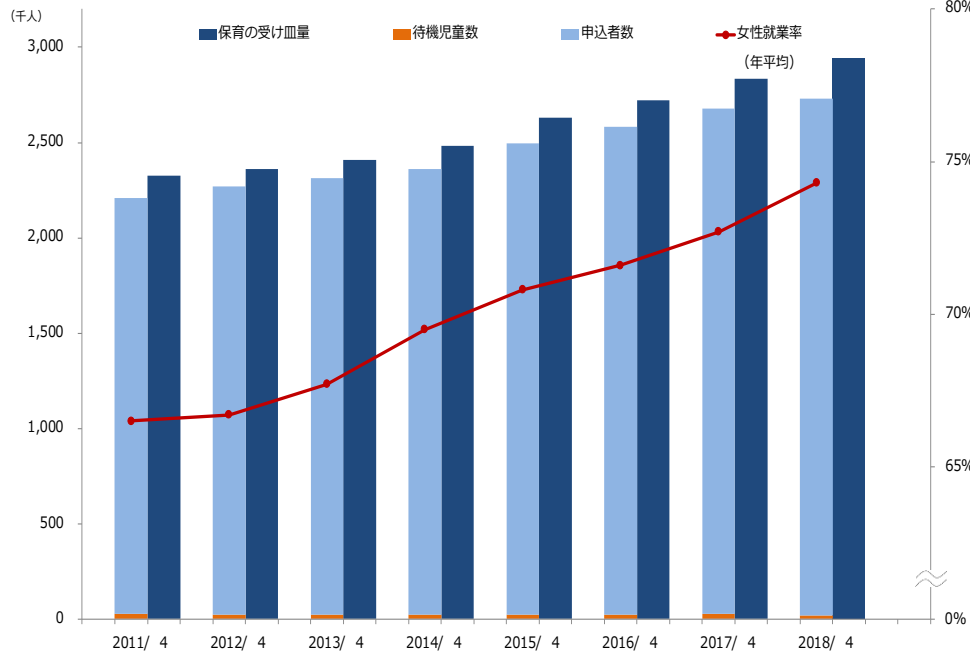


出所：総務省「国勢調査」、一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会、住環境価値向上事業協同組合「大工の育成と雇用形態 平成25年度」一般社団法人 木を活かす建築推進協議会より当社作成

# 待機児童数の状況

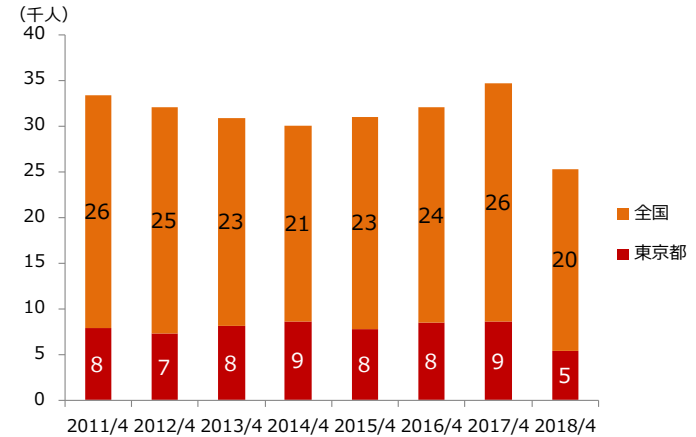


## 女性就業率、保育所受け皿量、待機児童数の推移



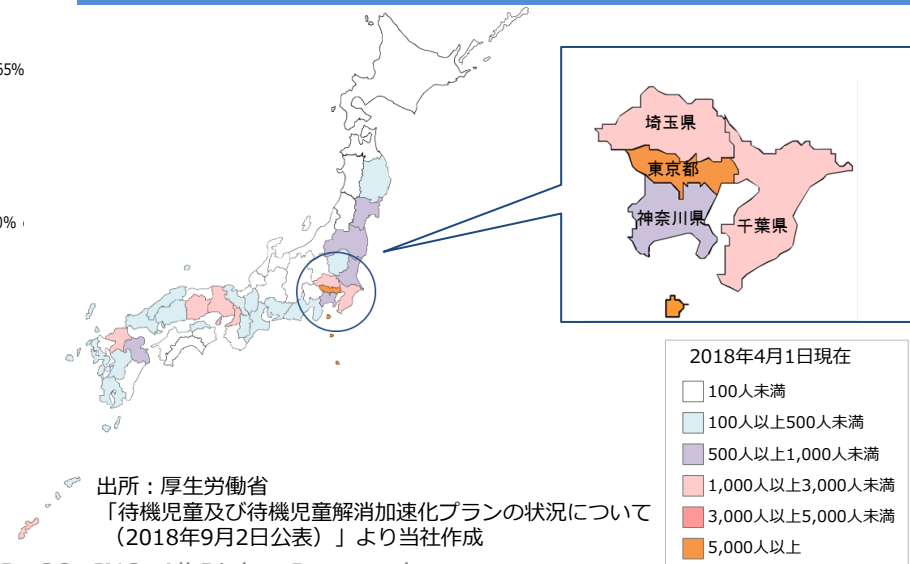
出所：厚生労働省  
「待機児童及び待機児童解消加速化プランの状況について（2018年9月7日公表）」  
より当社作成

## 全国待機児童数に占める東京都の割合



出所：都福祉保健局公表資料「保育サービス利用状況等について（2018年7月30日）」  
より当社作成

## 地域別待機児童数の状況



## 木材資源の有効活用による環境保全活動を中心に推進

### 環境 (Environment)

#### 木材資源に関する3R活動を推進

- ① **Reduce (削減)** :  
木材をプレカット加工する際に発生する端材の量を削減  
例) ムダな端材が発生しないような寸法の木材を調達
- ② **Reuse (再利用)** :  
端材を別の製品の材料として再利用  
例) 構造材や端柄材の加工の際に発生した端材を短材プレカットの材料として利用
- ③ **Recycle (再資源化)** :  
端材を再生資源として再利用  
例) プレカット製品の材料として再利用することができない端材を製紙用、バイオマス燃料用のウッドチップとして加工

#### 木材のグリーン調達

- ・ 合法木材供給事業者認定取得 (東金工場、山武工場)

木材は、二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) を固定化させるため、木造住宅のプレカット製品の製造やその他の木材資源の有効活用を通じて、**CO<sub>2</sub>排出量削減などの環境保全に貢献**

### 社会 (Social)

#### 製品・サービスの品質保証の推進

- ・ ISO9001の取得  
(「木材住宅プレカット材の設計、製造」など)
- ・ JAS認定工場 (東金工場)
- ・ 優良木質建材等認証 (AQ認証)  
(山武工場、シー・エス・マテリアル)

#### 少子化・待機児童対策への貢献

- ・ 保育所の賃貸事業を都内を中心に積極的に展開、施設数も年々増加

### 企業統治 (Governance)

#### 社内での啓蒙活動の推進

- ・ コンプライアンス教育の実施
- ・ 内部通報制度  
(コンプライアンス・ヘルプラインの設置)

# 株式会社シー・エス・ランバー

【お問い合わせ先】

株式会社シー・エス・ランバー

取締役 管理本部長 鈴木 正裕

TEL 043-213-8810

FAX 043-213-8819

URL <https://www.c-s-lumber.co.jp>

## <ご案内>

本資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関する情報は、資料作成時点での弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではありません。市場環境等の様々な要因により、今後の業績は本資料の内容と異なるものとなる可能性があります。

また、本資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、ご利用者自身の判断において行われるようお願い申し上げます。

なお、いかなる目的であれ、本資料を当社の許可なく複写複製等を行わないようお願い申し上げます。